

事業計画書

1. 事業名称 ゲット ユア ドリーム 事業

2. 実施主体

- 団体名： 特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド
- 事業担当課： 子育て支援課

3. 取り組もうとする課題

(どのような問題を解決することを課題としたのか。その背景なども含めて記載してください。)

【問題の背景（現状）】

- * 核家族化や少子化が進行し、さらには地域の中での交流が減少している。
- * 松戸市では、行政・学校・民間団体・地域の大人が個々に存在し、中高生に対する連携した支援が少ない。

【解決したい問題】

- * 子どもが世代を超えて人々と出会い、様々な価値観に触れる機会が減少している。
- * 自分の将来について不安を抱え、何かを始める前に諦めてしまう中高生が多い。
- * 「何かをしたい」というような意欲を持った中高生が減少している。
- * 23 年度事業で松戸市内の中学校にチラシ配布依頼、高校に訪問し事業説明を行ったが、教師、生徒へ伝わらない事業周知の難しさがある。

【取り組みたいこと（課題）】

- * 多くの中高生が様々な職業や経歴の大人と対等に話ができる交流の場を作る。
- * その中で、多様な価値観に触れ、自ら考え発言する機会を提供する。
- * 行政・学校・民間団体・地域の大人とのつながりを生み出し、地域の連携を強化する。

4. 事業内容及びスケジュール

(3の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。)

- ① 中高生が様々な分野で活躍している大人たちとの対話・交流を持てる機会を提供する。
 - (1) 松戸市内の中高校生対象にチラシ等で公募によるワークショップを行う。

中学校・高校・青少年課からも協力を得て、参加者の募集・事業周知を行う。
23年度参加者に企画から参加してもらう。
 - (2) 高校でワークショップを行う。

松戸市内高校 1 校の協力を得て、校内でワークショップを行う。

- ② ワークショップのチラシ・ポスターを作製し、参加者の募集・事業の周知を行う。
- ③ 一過性のイベントではなく、ワークショップ企画準備 → 活動報告作成参加 → 次年度の企画参加 というように、参加者が次年度以降も継続して関わることができる関係を作る。
- ④ 本事業の活動報告パンフレットを作成し、次年度に向けて事業周知を継続していく。その中で「ユースペース」を一緒に紹介し、市内に中高生の居場所の一つとしてアピールしていく。
*「ユースペース」とは、平成18年より新松戸地域で当法人独自に運営している広場。平日の放課後に中高生に向けて無料開放し、友達同士や他の世代と気軽に交流できる居場所となっている。中高生達を継続して見守っていく為、協働事業の参加者にユースペースの周知も行っていく。

(日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。)

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月	チラシポスター作成・配布	チラシ19,000部 ポスター50部 配布先：松戸市内の中学校・高校、団体等
5月～	ワークショップ講師依頼	
6月	ワークショップ①(公募による)	対象：松戸市内の中学・高校生 場所：市民会館等
10月～12月	ワークショップ②(高校で開催)	対象：松戸市内高校1校の生徒 場所：未定(松戸市内の高校)
1月～3月	活動報告作成・配布	3000枚 配布先：参加者、松戸市内の中学校・高校、団体等

5. 事業に期待する成果

(事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。)

- ① 23年度事業のワークショップに参加した中高生が、様々な講師の人生観に感動し、「将来について真剣に考えたい」「あきらめない」「今出来ることをやってみる」などの感想を生き生きと話していた。さらにそのような中高生を増やしていきたい。
- ② 公募によるワークショップの参加者の目標を23年度と同じ50人のままとする。
- ③ 高校でワークショップを行うことによって、受動的な人も参加できるシステムを提供し、昨年度より確実に参加者を増やす。
- ④ 学校の先生方にワークショップを実際に見てもらうことで当事業及び当法人への理解を深めてもらい、協力校を増やしたい。
- ⑤ 地域の大人たちを講師として巻き込むことによって、中高生への理解関心を持つサポーターを増やしたい。(平成23年度は講師として8名の大人が参加し、地域のサポーターとなっている)
- ⑥ 松戸市、学校、民間団体、当法人4者の交流が深まり、お互いの役割について理解を深め、中高生への支援の協力体制が構築される。
- ⑦ 協働事業を通して中高生の実態をより具体的に把握をすることができ、松戸市の今後の次世代育成の施策に貢献出来る。

6. 協働の意義

(協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。)

- ① 民間団体独自では築くことのできない学校や他のNPO団体、市の協力をへて道が開かれ、PRしきれなかった中高生に対しても幅広く当団体の活動を知ってもらうことができる。
- ② ワークショップに協力してもらった「大人」の人選において、当法人と市の持っている人脈の双方を活用し、より、多様な人材の協力が可能になる。
- ③ 協働事業をしていく中で地域の大人たちが子どもの育成に関わり、中高生を支える環境が生まれ出される。
- ④ 松戸市次世代育成支援行動計画において、「思春期の子どもに対する支援をする」という項目で、子どもが地域社会で活躍する様々な大人と触れ合う事業の実施を規定している。本協働事業の実施により、当法人の専門性を活かした内容で計画に規定された事業を実現できる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

(提案者が行うことを具体的に記載してください。)

- ① ワークショップ等の企画、準備
- ② 協力校・講師との連絡・調整
- ③ チラシ等の広報文章の作成
- ④ 参加者のフォローアップ

■ 担当課の役割

(市が行うことを具体的に記載してください。)

- ① 協働事業を進める上での当法人に対する指導
- ② 協力校・講師との連絡・調整
- ③ 学校その他を含めた広報活動
- ④ 会場の選択や提供
- ⑤ 資金の提供

8. 将来の展開

(このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。)

- ① ワークショップを3年継続プランとし、毎年その成果を分析しながら内容を改善、発展させていく。
- ② 参加した中高生を次年度以降の企画・運営に参加し、新しい企画や活動へ展開する。
- ③ ワークショップを基盤とし、中高生が日常の生活の中で地域の大人や様々な職業の人たちとの交流を持つことが出来るようになる。
- ④ 参加した中高生を当法人運営する中高生の居場所「ユースペース」の利用につなげ、事業終了後も継続した支援を行っていく。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金額	積算内訳
		53,500 円 円	寄付金
提案者	自己資金合計（a）	53,500 円	
	労力換算額計（b）	256,500 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	273,000 円	
	資金合計額（d）（a+c）	326,500 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	広告宣伝費	91,300 円	チラシ@4.2 円×19,000 部 ポスター@230 円×50 部
	公募ワークショップ費	70,500 円	講師謝礼 4,000 円×10 人 消耗品 20,000 円 飲み物お菓子代@150×50 人分 行事保険 3,000 円
	高校ワークショップ費	77,000 円	講師謝礼 4,000×10 人 消耗品 20,000 円 飲み物お菓子代@150×80 人分 行事保険 5,000 円
	活動報告作成	54,800 円	@54.8×1,000 枚
	通信費	10,400 円	切手代@80×130 枚
	対象となる経費合計額（e）	304,000 円	
	その他経費	スタッフ交通費	9,000 円
スタッフ飲食費		10,000 円	@500 円×10 人×2 回
ワークショップ ゲーム・景品代		3,500 円	公募 1,500 円 高校 2,000 円

	その他経費合計額 (f)	22,500 円	
	事業費 (g) (e + f)	326,500 円	収入合計額 (d) と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
	チラシポスター原稿作成	4,000円	1人×2時間×4回×500円
	市との打ち合わせ	5,000円	2人×1時間×5回×500円
	講師依頼調整	24,000円	1人×2時間×24回×500円
	ワークショップ企画準備	32,000円	4人×2時間×8回×500円
	ワークショップ 前日準備・当日運営	160,000円	10人×8時間×4回×500円
	高校と打ち合わせ	6,000円	2人×2時間×3回×500円
	活動報告作成	12,000円	2人×4時間×3回×500円
	通信作成	1,500円	1人×3時間×1回×500円
	学校PR訪問	12,000円	2人×6時間×2回×500円
	合計 (b)	256,500円	